Heart Stream ライブ・レポート
2006 年 5 月 13 日(土)
Back In Town バック・イン・タウン

2006 年 5 月 13 日。生憎の雨となった土曜日の夜。東京は新宿区曙橋駅近く、フォーク・ミュージックのライブ・ハウスとしては国内最大級の規模と設備を誇るバック・イン・タウン。Heart Stream の東京での 1 年半ぶりのライブ・パフォーマンスは、キングストン・トリオの名ライブ盤のタイトルに因んで名づけられた、このお店への 3 回目の出演となりました。

昨年(2005 年)の活動は、8 月のメンバー4 人の故郷山口県での里帰りライブのみに終りましたが、2004 年 10 月以来の東京でのライブ出演に向けて、着々と準備を進めて来た 4 人でした。

開場から終演までの 3～4 時間を最大限に満喫していただくために、毎回何らかの工夫を凝らそうと頭を捻るのもライブの楽しみの一つです。この夜は、CD アンソロジー"Carry It On"を道標に、PP&M の音楽活動の軌跡を辿りながら名曲の数々をお届けしました。Heart Stream のレパートリーを PP&M のアルバム収録順に並べてセット・リストを作ったところ、これが何と実に良い選曲となり、自画自賛したところまでは良いのですが、ある程度まで曲数を絞り込み、曲順を決めた段階で、それ以上は 1 曲も外すことができなくなり、何と第 1 ステージ 60 分、第 2 ステージ 90 分！という長時間のパフォーマンスとなってしまいました。（最後までお付き合いいただいたご来場の皆様には、改めてこの場をお借りして、御礼申し上げます。）

オープニングにもひと工夫。フォーク・ミュージックのドキュメンタリー映画"FESTIVAL"の冒頭、音響チェックを兼ねた PP&M の"Come And Go With Me"のゆったりとした演奏が流れる中、観客が続々とNEWPORT FOLK FESTIVAL の会場へと向かうシーンを拝借。このモノクロ映像をステージ背景に映し出して、この日の Heart Stream Festival も"Come And Go With Me"でスタートしました。

ステージの合間の食事と歓談の BGM としては、ローラ・ニーロの And When I Die やフィル・オクスの There But For Fortune、エリック・アンダーセンの Rolling Home など、PP&M が手がけた曲の作者であるソングライターのオリジナル演奏を含む、様々なミュージシャンによる PP&M ナンバーのオンパレードを楽しんでいただきました。

第1ステージで、1962 年のデビュー・アルバム”Peter, Paul and Mary”から 1965 年の”A Song Will Rise”までの 5 つのアルバムからお届けした 14 曲。何れも Heart Stream の 4 人が長年親しんで来た、それぞれに思い入れのある曲です。曲に対する一人一人の理解と思いを共有することが、魅力的なアンサンブルを創り出す秘訣の一つと考え、歌詞の内容について時折意見を交わす 4 人ですが、これからは改めて歌詞の読み合わせなどを練習に取り入れてみよう、などと考えています。1 曲を歌い演奏している 3 分前後の間、メンバー4 人の脳裏に映し出される、歌詞の内容とメッセージが髣髴させる情景。これが共有できるのが理想ですね。

<u>The 1st Stage:</u>

Opening! : Come And Go With Me

1. Lemon Tree
2. Early In The Morning
3. 500 Miles
4. Settle Down
5. Gone The Rainbow
6. Puff, The Magic Dragon
7. Very Last Day
8. Don't Think Twice It's All Right
9. Blowin’ In The Wind
10. The Times They Are A-Changin'
11. Ballad Of Springhill
12. For Lovin’ Me
13. Jimmy Whalen
14. San Francisco Bay Blues

このステージでは、Heart Stream が高校時代から演奏して来た Bob Dylan の名曲が 3 曲続きました。恋人と別れる男の複雑な感情の機微を歌う失恋ソング、“ドント・シンク・トワイス”は、これまで何百回歌ったでしょうか。 マリーさんが「毎日歌い続けても決して飽きることはない」と称える“風に吹かれて”は、Heart Stream にとっても、歌詞の内容を知れば知るほど益々好きになり、演奏するたびに感情の高まりを覚える曲です。そして、“風に吹かれて”と並んで、いつの時代にも通用する普遍的なメッセージという点では、“時代は変わる”が双璧ではないでしょうか。マリーさんがソロで歌う、「世の中のお父さんやお母さん、自分

が理解できないからといって批判してはいけない。息子や娘たちを思い通りに支配することなんかできないのだから。あなた方の古いやり方は、どんどん古臭くなって行くのです。」というくだりを、歌い始めた高校時代とは逆の立場で歌っていることに、感慨深いものを感じます。PP&M も、リリース当時は子の世代を代弁して歌い、その後は親の立場で同世代の自省を促し、更に孫達の親の世代へ向けての教訓として、歌い続けているのでしょうか。

The 2nd Stage

1. The Rising Of The Moon
2. Early Morning Rain
3. Jane, Jane
4. And When I Die
5. Sometime Lovin'
6. Rolling Home
7. Leaving On A Jet Plane
8. Apologize
9. She Dreams
10. Such Is Love
11. Power
12. There But For Fortune
13. No Easy Walk To Freedom

Encore! 1: Cruel War
Encore! 2: Where Have All The Flowers Gone
Encore! 3: If I Had A Hammer

第 2 ステージでは、1965 年の"See What Tomorrow Brings"から 1968 年の"Late Again"までのアルバムからの 9 曲と、再結成後の 1983 年のライブ・アルバム"Such Is Love"から 3 曲、エンディングには行動主義者 PP&M の面目躍如たる曲 No Easy Walk To Freedom を選びました。そして暖かいアンコールの声援にお応えして PP&M クラシック・ナンバーを 3 曲お届けしました。

PP&M の演奏の再現を試みるときに、初期のアルバムにおいて全体の音作りに絶妙の効果を発揮している、第3のギターによるオブリガートをどう効果的に取り入れるかを工夫することは、ギター・プレーヤーとしての大きな楽しみです。サード・ギターの音色が溶け込んだ、スタジオ録音の雰囲気に近付けるためには、Peter または Paul のパートのどちらかが、自分のパートを弾きながら、このリード・ギターによるオブリガートを入れることになります。歌を歌いながらのこのギター・プレーは、なかなかチャレンジングですが、練習が実を結び、僅かでも PP&M のスタジオ録音の雰囲気に近付いた時の喜びはひとしおです。この夜の曲目では、第1ステージの、For Lovin' Me, Jimmy Whalen、第2ステージの Early Morning Rain でこの味付けをしてみました。

Heart Stream が毎回のライブで掲げるテーマは、『懐かしさと新鮮さ』。実はこのテーマには、「PP&M の１曲１曲に結び付いた思い出を、Heart Stream の演奏により蘇らせるお手伝いをしたい。そして、PP&M アンサンブルの再現を試みる Heart Stream の演奏を、PP&M を知らない世代の皆さんが PP&M ファンになるきっかけにしたい。」という、Heart Stream メンバー4 人の目標と熱い思いが込められています。ライブを重ねる度に、懐かしい思い出を蘇らせた皆様からの反響が大きくなって行くのを実感し、Heart Stream を聴いて PP&M の CD を初めて入手されたという 20 代の方のお話などを伺うにつけ、『懐かしさと新鮮さ』を、バンド活動の永遠のテーマであり目標とすることについて、意を強くする今日この頃です。

1968 年から 3 年間の高校時代に PP&M のカバー・バンドとして活動した私たち 4 人が、30 余年を経て再び演奏活動を開始したのは、5 年前 2001 年の 5 月のことでした。以来、Heart Stream の名前を得て既に 5 年間活動を続けて来ましたが、当初の『年 2 回以上の定期ライブ出演』の目標達成の難しさを痛感しつつ、500 マイル離れた遠距離バンド(東京、千葉、栃木、広島)のハンデを乗り越えて、ゆっくりとではありますが、常に新たなチャレンジを試みています。

このライブの夜、皆様の暖かいご声援と PP&M を愛するエネルギーに包まれて、Heart Stream の 4 人は、練習よりもリハーサルよりも、本番演奏を最高に楽しむことができ、満足感と充実感に包まれています。これからも精力的に活動を続けて行きたいと思いますので、暖かいご支援を、よろしくお願いいたします。(by 河谷徹孝)

Heart Stream
河内良文　河谷徹孝　栗原晴美　山中義晴
http://www009.upp.so-net.ne.jp/Heart-Stream/